

2013年1月13日

INC5 開会（オープニングセッション）における谷洋一の発言

議長、ありがとうございます。私は、水俣病協働センターとIPENを代表してお話します。

私は今まで41年間水俣で、世界でもっとも有名な水銀中毒の被害者とともに働いてきました。私が、水俣の悲劇はいまだに続いていると申しあげなくてはならないことは、悲しむべきことでもあります。実際に数ヶ月前に、6万5,000人以上の被害者が水俣病特措法の下に救済の申請をしました。このことは、今週の皆様の仕事を非常に重要なものにすると思います。

ご存知のように条約名を水俣条約とするという提案があります。この提案に対して議論がわき起こっているのですが、私はこれとは異なる名前にすることを注意深く検討していただくよう要請したいと思います。

第一に、多くの水俣の被害者はこの提案された名前に反対しています。これにはいくつかの理由があります。多くの被害者はいまだに救済されていません。包括的な健康調査は、決まらずに行なわれたことはありません。水銀を含んだ150万立方メートルのヘドロがまだ埋め立てられたままです。もし条約が水俣条約と命名されるなら、それはこれらの被害者の名誉を損なうことになるでしょう。

水銀条約は将来の水俣のような悲劇を防がなければなりません。しかし現状の条約テキストは汚染された場所に対して、どのような行動も求めていません。汚染者は浄化のためのコストを払う必要がありません。被害者を補償するどのような規定もありません。もし、将来の水俣のような悲劇が起きることを再び許すなら、条約に水俣にちなんだ名前をつけるということはなんとも皮肉なことです。

私は、いくつかの政府が提案されている名前に同意しないことを表明していると理解しています。これらの政府は水俣という名前はローカルであり、国際的な条約にはふさわしくないと述べています。

最後に、都市の名前をつけていない多くの条約があります。例えば、生物多様性条約です。

議長、結論を申し上げます。

水俣は単に名前や地名や病名だけのものではありません。それは、悲劇について、苦痛について、企業の無責任について、被害について、そして差別について語るものです。

水俣は地域の人々のことです。それは被害者が生き残るための戦いについて、そして生きることを決意することについて物語るものです。これが真の水俣です。

この悲劇に敬意を表するために、私たちは、新しい条約に“水銀条約”と命名することを謹んで代表者の皆さんに要請します。

どうぞ、私たちの考えをご検討ください。